

## 公益財団法人セゾン文化財団

### セゾン・アーティスト・イン・レジデンス、ヴィジティング・フェローの紹介

公益財団法人セゾン文化財団では、2018年度の「セゾン・アーティスト・イン・レジデンス、ヴィジティング・フェロー」の一環として、インドを拠点に活動する演出家シャンカル・ヴェンカテシュワランを迎えます。

ヴェンカテシュワランは、インド・ケーララを拠点に国際的に活躍する演出家で、劇団シアター・ルーツ & ウィングスを主宰し、2015-16年にケーララ州国際演劇祭の芸術監督を務めました。現在、ケーララ の山間部に住む先住民族とともに劇場を建設し活動を展開しています。日本では、2016年に太田省吾作の『水の駅』を京都国際舞台芸術祭 2016 で上演し注目を集めました。

セゾン・アーティスト・イン・レジデンスでは、新作のため「身体、空間、観客における政治と展望—現代日本社会の演劇とダンス」をテーマに、日本の演劇、舞踊、儀式、祭りにおける「演者と観客」の関係が持つ多次元にわたる現象についてリサーチを実施します。また、今回の滞在を機に、2017年にチューリッヒで発表された話題作『犯罪部族法』の上演ほかワークショップ、公開トークなども開催されます。

ヴィジティング・フェローでの滞在期間中、日本の舞台芸術の状況や背景、魅力などを発見していただくため、多くの舞台芸術関係者と交流していただきます。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

- 滞在期間      2019年1月10日(木)-2月5日(火)  
                    \*1月13日(日)・14日(月・祝)15:00-17:00、京都造形芸術大学舞台芸術研究センター  
                    でパブリック・トークを開催。詳細:<https://www.kyoto-art.ac.jp/events/1914>
- 滞場所        京都および森下スタジオ（東京都江東区森下 3-5-6）
- 滞在目的     「身体、空間、観客における政治と展望—現代日本社会の演劇とダンス」をテーマ  
                    にリサーチ



平成 30 年度文化庁「アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業」



シャンカル・ヴェンカテシュワラン(Sankar Venkateswaran)

1979生まれ。カリカット大学演劇学部、シアタートレーニング&リサーチプログラム(シンガポール)で学ぶ。代表作に、美加里が参加した『山脈の子-エレファント・プロジェクト』(2008)、ドイツ・ミュンヘンフォルクシアター委嘱作品など。インタビューに「シャンカル・ヴェンカテシュワラン-インド・ケーララから世界を眼差す」(国際交流基金アジアセンター)

<https://jfac.jp/culture/features/f-ah-sankar-venkateswaran/>

#### 関連企画

1月19・20日 シアター commons'19 にて『犯罪部族法』上演、<http://theatercommons.tokyo/>

1月26日 「身体の話」 東京大学大学院博士課程教育リーディングプログラム

[https://ihs.c.u-tokyo.ac.jp/ja/schedule/post/h\\_190126\\_sankar\\_01/](https://ihs.c.u-tokyo.ac.jp/ja/schedule/post/h_190126_sankar_01/)